

第15回「京都市ごみ収集業務評価推進会議」議事録

日 時 平成29年7月10日（月）
午後3時30分～午後4時50分

場 所 埋立事業管理事務所 2階広報室

出席者 （敬称略 五十音順）

委員 飯田 尚 絵（市民公募委員）
" 大内 龍 二（市民公募委員）
" 菊池 健太郎（公認会計士）
" 小島 一 芳（市民公募委員）
" 高橋 かつ子（京都市ごみ減量推進会議理事）

会 長 中井 歩（京都産業大学法学部教授）

事務局 京都市 環境政策局 循環型社会推進部 まち美化推進課

議事内容 ○ 協議事項

京都市のごみ減量・リサイクルの取組について

平成29年度「ごみ収集業務に関するアンケート調査」について

○開会

○環境政策局循環型社会推進部長挨拶

部 長： この会議も平成21年3月に設置をしてから早くも15回を数えることとなります。

今回から新しく大内さん、飯田さんに委員に就任していただいた第1回目の会議となります。よろしくお願いします。

そもそもこの会議の目的は、市民感覚を重視してサービスの徹底を具体化することであり、これまで14回を数える中でさまざまに御意見をいただいて、我々の業務に反映してきたところです。

近年、災害が非常に多い状況の中で、市民の生活を守っていくところはしっかり京都市、公務員が担いながら、収集業務も含めて民間にできることは民間で行い、委託化を進めて効率化を図っていくというような流れになっております。

我々はその中で市民に寄り添って、多様化する市民ニーズに対応して仕事を進めていくということと、さらなるごみ減量ということで、単純にごみを収集するだけではなく、市民の中に入って様々なニーズを把握して業務を進めていく必要があるため、この会議の皆さんからの意見を頂戴して、それを業務に反映していきたいと考えております。ぜひ忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局紹介

会 長： それでは、まず本会議の役割を改めて確認しておきたいと思えます。

本会議の役割は、家庭から排出されるごみの収集という、市民生活に大変関わりの深い業務を市民の感覚で評価、点検し、京都市の業務改善につなげることであります。「PLAN (プラン)」・「DO (ドゥ)」・「CHECK (チェック)」・「ACTION (アクション)」、いわゆるPDCAの業務改善サイクルの「CHECK (チェック)」の役割を果たすのがこの会議であります。

この本会議では、意見を出し合うことで、市民の皆様に満足いただける業務が実現するよう、忌憚のない意見交換、質疑をしていただきたいと思います。

本日の会議は、第1に「エコランド音羽の杜」の視察を踏まえまして、京都市ごみ減量、リサイクルの取組について、第2に市民アンケートの調査について、それぞれ活発な御意見をいただきたいと思います。

それでは、まず配付資料の確認から行いたいと思えますので、資料確認を事務局からお願いいたします。

事務局から資料の確認及び説明

会 長： ただいま資料2と3、「まち美化事務所業務の現状について」、「京都市のごみ減量・リサイクルの取組について」、説明をいただきました。説明いただいた内容と、会議の前に視察していただいたこのエコランドについても含めて、何か御意見あるいは御質問等ございますでしょうか。

委 員： バイオマスポリエチレンのごみ袋について、20リットルの袋をテストケースで販売するとのことでしたが、市場を見ていると10リットルもよく売れているように見えますので、10リットルの袋も作ってはどうか。また、強度の変化はあるのでしょうか。

事務局： 一番売れているのが20リットルの袋になり、試行実施ということで1か月分製造しています。使用していただいた方の反応を参考に検証し、そのうえで本格製造に入ろうと考えており、本アンケートでも触れさせていただきたいと考えております。強度については、以前の袋と変わりません。

会 長： コストの部分も変更はあるのでしょうか。

事務局： コストの変動は多少ありますが、そもそもごみ袋の価格は製造コストを反映しているものではなく、ごみ処理手数料をご負担いただいているという考え方でして、コストが多少上下しても、ごみ袋の価格には直接影響がないこととなります。

会 長： コストのことも含めて、実はごみ処理にはコストが掛かるということを市民の方に理解いただくことは大切に感じます。コスト意識を持つことで、ごみ減量につながることもあると思います。

事務局： ここまでごみの減量が進んだのは、ごみ袋を有料化したことが大きく影響していると考えています。さらに、市民の方の御協力のおかげでもあります。これまで燃やすごみに入れていた紙ごみを、地域のコミュニティ回収に出したりすることで、これまで45リットルの袋を使っていた方が、30リットルでよくなったなど、目に見える形でごみ減量が進むことは励みになるといったお声もあり、良い循環になっていると思います。

委員： 不法投棄ごみ対策の看板についてですが、ずっと置いたままになっていて、少しずつ汚れてきています。例えば監視カメラのようなものは、難しいのでしょうか。

事務局： 看板については、地域の方と相談のうえ、設置場所等を決めていまして、ひどく汚れているものなどがありましたら新しい看板に変更します。

監視カメラについては、基本的には貸与という形で、地域の方にお貸しして設置いただくことになっています。プライバシーの問題もあるので、基本的には不特定多数の方が通行される方向へ向けずに、道路などの不法投棄等がある場所に向けて設置していただいています。

会長： プライバシーの話がありましたが、映像の保管については、地域の方にお任せしているということですか。また、消去の期間などの基本的な取扱い基準などがありますか。

事務局： 映像の保管については、地域の方にお任せしており、保管方法等の取扱いについては、地域の方に説明しています。

会長： 施設の見学については、いかがでしたでしょうか。

委員： これまでに3回ほど行かせていただきましたが、以前に比べて狭まった印象を受けました。最初に見学したときは、これほど大きな場所が5年、10年でというお話に疑問を持ちましたが、延命しているとはいえ、全体的に圧迫感が強まったように感じました。

委員： 燃やした灰を埋めている場所というお話から、煙たそうなイメージを持ってきましたが、実際はすごくきれいで、名前のおり杜のような印象を受けましたし、イメージがガラッと変わりました。

会長： 煙たそうな場所の印象があるものの、そうではないというお話がありましたが、こういった印象を他の方ももたれる場合も多いのではないのでしょうか。様々な機会を通じて学生さんやお子さんに見学していただいて、この音羽の杜をどう守っていくかというような前向きな議論をする環境学習など、意味のある取組ができるのではないかと感じました。

会 長： それでは続きまして、「平成29年度「ごみ収集業務に関するアンケート調査」(案)について」を事務局から説明をいただきたいと思います。

事務局から資料に基づき説明

会 長： ありがとうございます。事務局から御説明がありましたとおり、今回のアンケート調査につきましては、基本的に前回のアンケート調査の内容を踏襲し、経年変化を見る項目を中心に構成されています。しかし、今回は新規項目として、食品ロス、バイオマスポリエチレン、せん定枝収集があります。今回のいただいた案について、お気づきの点、修正点、追加するべき点など御意見いただきましたらお願いいたします。

委 員： 油の回収は増えているのでしょうか。私の家でも回収しているのですが、去年・一昨年よりもたくさんたまっているように感じます。

事務局： 平成26年度に一度落ち込んだものの、その後増加しています。おかげさまで平成27年度と比較して平成28年度は3%ほど増加している状況です。

委 員： 啓発の関係で一つお願いがあるのですが、PTAや若いお母さんに向けた講座を設けていただけたらと思います。といいますのも、先日、私が教室を開催した時にPTAの方も来てもらって、子供さんにごみ減量のクイズをやらせてもらって、一緒に聞いておられたお母さんたちがほとんど知らなかったということがありました。ごみ減量に関心をもってもらいたい層に向けたパンフレットや講習があれば良いと思いました。

事務局： 平成29年6月ごろより、「しまつのこころ学考」という事業を始めていまして、そこでは食品ロスなどいくつかのテーマから選んでいただき、ごみ減量について学んでいただける地域学習会を開催していますので、ぜひご利用いただければと思います。

また、若い世代や学生さんなど、ごみ減量に関心を持っていただきたい方々にも広報していく必要性を感じており、夏休みなどを利用して大学のゼミ単位でエコバスツアーの参加の促進等をしております。

会 長： 若い世代、子どもさんや子育て世代にどうアピールするかについて、京都市は地域の団体や自治会を通じて展開されているとは思いますが、なかなか若い世代に入りにくいところもあると思います。環境学習で子どもさんに対して社会見学

を取り入れているというお話がありましたので、そこからさらに入って親の方たちに伝わっていくようなツールなど、そういうものがあれば、さらに減量は進んでいくのではないかと思いました。

会 長： 本日予定しておりました議題は全て終了いたしましたので、事務局へお返しいたします。

○閉会

事務局： 本日は長時間にわたりまして貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。本日、頂戴しました意見をしっかりと踏まえ、今後の収集活動に生かしていきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。
本日はどうもありがとうございました。